東北大学東北アジア研究センター　上廣歴史資料学研究部門ニューズレター

史の杜

ふみのもり

TOHOKU UNIVERSITY

第2号

東北アジア研究センターと上廣歴史資料学研究部門

東北アジア研究センター長　岡 洋樹

東北大学東北アジア研究センター上廣歴史資料学研究部門は、上廣倫理財団のご厚意を得て、2012年に寄附部門として設置されました。これは元センター長で、東北大学災害科学国際研究所長になられた日本近世史の平川新先生のご尽力によるものです。東北アジア研究センターは、文理の研究者を擁する人文社会科学系の地域研究センターとして、社会貢献的性格の強い研究プロジェクト展開に注力してきましたが、歴史資料保全活動もその1つです。上廣歴史資料学研究部門は、災害科学国際研究所に移られた平川先生（兼務）のもと、荒武賢一朗准教授、高橋陽一助教の3名で発足し、2013年度からは、さらに友田昌宏助教が加わり、4名体制で活動しています。その活発な活動の様子は、本ニューズレターでも詳しく報告されているところです。

歴史学は、文化人類学のようなフィールド型の研究とは異なり、残された史料を解読するデスクワークを基本としてきました。そのような歴史学が、地域社会と共有しうる接点とは何なのか。歴史資料学が問いかけるのは、そのような根源的な疑問です。そもそも歴史学者が向き合うのは、実は歴史そのものではなく、史料にほかなりません。ですから歴史学の研究や歴史叙述は、史料の残存状況に規定されるところがはなはだ大きいのです。一方民家に残された記録は、地域社会が受け継ぐ歴史の遺産です。歴史資料学は、この史料の「残り方」に主体的に関わろうとします。本来史料保存は博物館やアーキヴィストの仕事ですが、歴史資料学の意義は、歴史叙述を担う歴史学者が、地域社会とともにこれを行おうとする点にあります。さらに歴史資料学が実施する古文書講座は、地域社会の人々が文書を自ら読み、理解することを可能とすることにより、さらに実質的なものとなるでしょう。つまり歴史の叙述の前提条件となる材料を、地域社会とともに残し、理解し、そしてともに叙述するという、地域参加型の歴史理解・叙述の構築へと結びつくことが期待されます。そこにはちょうど現地社会の中でインフォーマントの語りを記述しながら、その社会を理解しようとする文化人類学研究と同じような構図があります。当然そこには、地域住民の語りと学としての歴史記述の間に緊張関係が生み出されることもあるでしょう。地域社会と歴史学者が地域の中でともに歴史を語り伝える主体となった時、いかなる歴史が「構築」されるのか。歴史研究を志す者として、興味は尽きないところです。

歴史資料保全活動

歴史資料調査と活動の発信

～白石市・利府町・大崎市～

私たちの日常的な資料保全活動、そして歴史に関わるさまざまな調査や研究についてご紹介したいと思います。ひとことで言えば「地域連携」となりますが、部門の活動は資料の所蔵者や地域の専門家・研究者、自治体職員などの皆さんと協力しながら進めています。

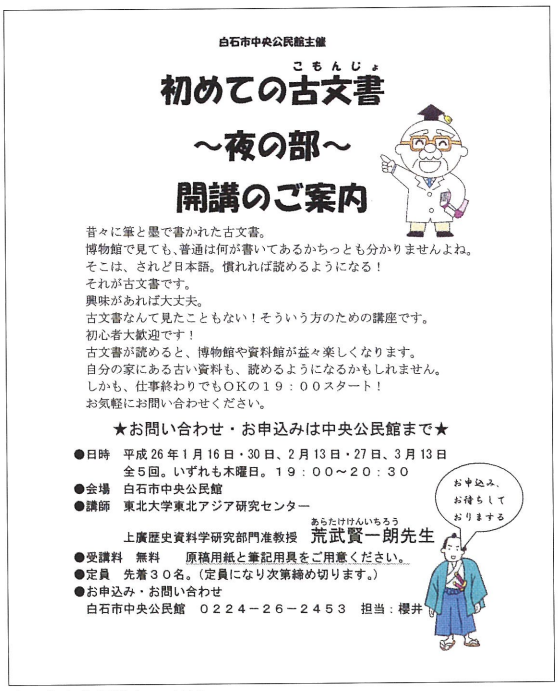
白石市教育委員会の皆さんとは、市民を対象にした古文書講座の共同開催、古文書の整理・目録化作業、白石市図書館蔵書目録作成などで一緒に仕事をしています。古文書講座は市民の皆さんに少しでも地域資料に関心を持ってもらおうと、2013年度は白石市中央公民館で2回のシリーズを実施しました。また、江戸時代の白石がよくわかる商家文書の整理と目録化を進めています。今年度から東北大学・東北学院大学・宮城学院女子大学の学生・大学院生が参加して、現在のところ1000点以上の目録化が完了しました。そして白石市図書館には貴重書がたくさんあり、これも毎月1回、図書館や教育委員会の皆さんと作業を進めています。いずれも共通するのは、広く社会に歴史の情報を公開し、活用していくことにあります。

利府町郷土資料館では、塩竈神社の社家であった小野家の古文書調査および目録化をおこないました。それをもとに、2013年12月にはミニ企画展「利府の古文書が伝える江戸時代―小野家文書の紹介」が開催され、300名以上の来場者がありました。

昨年の講座をもとにした『地域の歴史を学ぶ―宮城県大崎市の文化遺産―』(東北大学東北アジア研究センター報告10)を出版しました。これは、地域で研究をされている皆さんとの共同作業で、地域史を知る貴重な1冊となりました。

資料保全活動から文書目録の作成、展示、出版という流れには長い歳月が必要になります。しかし、貴重な資料がオープンとなって、研究者のみならず、社会人や学生の皆さんを含め活用されることが、我々の大きな目標です。

(荒武賢一朗)


白石市中央公民館主催

初めての古文書(こもんじょ)

～夜の部～

開講のご案内

昔々に筆と墨で書かれた古文書。
博物館で見ても、普通は何が書いてあるかちっとも分かりませんよね。
そこは、されど日本語。慣れれば読めるようになる！
それが古文書です。
興味があれば大丈夫。
古文書なんて見たこともない！そういう方のための講座です。
初心者大歓迎です！
古文書が読めると、博物館や資料館が益々楽しくなります。
自分の家にある古い資料も、読めるようになるかもしれません。
しかも、仕事終わりでもOKの１９：００スタート！
お気軽にお問い合わせください。

★お問い合わせ・お申込みは中央公民館まで★

●日時　平成26年1月16日・30日、2月13日・27日、3月13日
　全５回。いずれも木曜日。１９：００～２０：３０
●会場　白石市中央公民館
●講師　東北大学東北アジア研究センター
　上廣歴史資料学研究部門准教授　荒武賢一朗(あらたけけんいちろう)先生
●受講料　無料　　原稿用紙と筆記用具をご用意ください。
●定員　先着３０名。(定員になり次第締め切ります。)
●お申込み・お問い合わせ
　白石市中央公民館　０２２４－２６－２４５３　担当：櫻井

お申込み、お待ちしております

白石市古文書講座のチラシ

古文書の整理作業

利府町郷土資料館ミニ企画展

宮城資料ネットとの連携活動
～地域での資料保全～

金家での古文書の写真撮影

部門では、開設当初からNPO法人宮城歴史資料保全ネットワーク（宮城資料ネット）と連携して活動を展開しています。

2013年8月7日～9日まで、岩手県一関市の金（こん）家で歴史資料保全活動が行われました。金家は一関市大東町の山間部にあり、江戸時代には仙台藩の広域行政職である大肝入（おおきもいり）を務めていました。宮城資料ネットが中心となった活動でしたが、仙台市内や東京の大学教員・学生のほか、地元の博物館職員も加わった総勢約30名によって、古文書を撮影し、永年保存用の封筒と箱に詰める作業を実施しました。11月23・24日にも同様の作業を行っており、今後も継続していく予定です。

また、8月24日～26日まで、同じく宮城資料ネットが中心となり、宮城県多賀城市の東北歴史博物館にて岩手県陸前高田市吉田家文書の整理作業が行われました。吉田家は、江戸時代に仙台藩領の気仙郡の大肝入をつとめていました。陸前高田市の古文書は震災により多大な損害を被っており、同館所蔵の吉田家文書の史料的価値は高まっています。今回の作業では、関東・関西方面からの参加者を含めた計38名によって、段ボール14箱分の古文書の撮影作業が実施されました。

2012年から行われている宮城県柴田郡川崎町の佐藤仁右衛門家文書の保全活動の成果として、東北アジア研究センター叢書50号『江戸時代の温泉と交流―陸奥国柴田郡前川村佐藤仁右衛門家文書の世界―』を刊行しました。佐藤家は遅くとも江戸時代初期から青根温泉の湯守（温泉管理人）をつとめ、現在も温泉旅館を経営しています。本書はその成果報告として刊行したもので、古文書の解読文を収載しているほか、青根温泉と佐藤家の歴史を他地域との交流の観点からまとめています。（2013年12月東北アジア研究センターより刊行、非売品）

（高橋陽一）

宮城資料ネットとの連携活動
～古文書の修復～

宮城資料ネットの保全活動での作業風景

宮城資料ネットでは地域での保全活動のほか、事務局のある平川新研究室にて日常的に古文書の修復作業などを行っており、部門も積極的に協力しています。2013年度は部門から助教の友田が毎週水曜日・木曜日の2日間、平川研究室にて行われている宮城資料ネットの修復作業に参加、主に水曜日は水損史料のクリーニング、木曜日はふすまの下張り文書のはがし作業に従事しました。

開くこともままならない水損史料の有様は、そのまま東日本大震災の惨状を物語っていました。かかる状況に陥った史料をいかに保存・整理していくか、困難のなかで蓄積されてきたきめ細かなノウハウが今の宮城資料ネットの活動を支えています。今や「宮城方式」として定着しつつあるその粋の一端に触れようとして、遠方の大学からはるばる、教員とゼミ生の方々がともに来られることもしばしばです。

平川研究室は、連日、作業に参加するスタッフの方々や東北大・東北学院大などの学生で盛況です。そこに集う方々は、みな、各々の役割を意識し、手際よく作業をこなされています。そして、世代を超えて、史料を後世に伝えていくという仕事に誇りを持っておられます。そういった姿を見るにつけ、多くの人たちの力あってこその宮城資料ネットの活動なのだと実感する日々でした。

宮城県下には今も散逸の危機にさらされる史料が数多くあるものと思われます。宮城資料ネットはその危機を救うことのできる唯一無二の存在です。今後とも宮城資料ネットとの連携を深め、その活動をより有意義なものにできるよう、ともに考え行動していきたいと思います。

（友田昌宏）

講演会

公開講演会

よみがえる村田の歴史～江戸時代からのメッセージ～

2013年6月29日に、宮城県柴田郡村田町（道の駅「村田」歴史と蔵のふれあいの里村田町物産交流センター）にて、公開講演会「よみがえる村田の歴史～江戸時代からのメッセージ～」を開催しました。当日のプログラムは以下の通りです。

＜開会の挨拶＞　平川新（部門兼務教授、東北大学災害科学国際研究所所長）
＜　講　演　＞　「村田町、生い立ちの頃―山田家文書の概観から―」
　　講師：佐藤大介（東北大学災害科学国際研究所准教授）
　　「山田家蔵書の世界―地域歴史資料としての価値―」
　　講師：小関悠一郎（千葉大学教育学部准教授）
＜閉会の挨拶＞　佐々木安彦（村田町歴史みらい館館長）

講演会のようす

本講演会のきっかけは、村田町の旧家山田家の古文書調査です。山田家は村田町の商業のパイオニア的存在で、同家には江戸時代の店蔵など数棟の土蔵がありましたが、震災により一部が損壊しました。後に宮城資料ネットや村田町により本格的な調査が実施され、従来知られていなかった江戸時代前期の村田町の歴史を解き明かす古文書が所蔵されていることが判明しました。そこで、貴重な歴史資料の存在を多くの人に知っていただくため、専門家を招いての講演会を企画しました。当日は140名以上の方にお越しいただき、関心の高さを目の当たりにすることができました。今後も様々な形で、歴史資料保全活動でレスキューされた古文書を活用していきたいと考えています。

講演者の方々、開催にご協力いただいた村田町の皆様に心より感謝申し上げます。

（高橋陽一）

講座：地域の歴史を学ぶ◎鬼首

2013年10月6日、宮城県大崎市鳴子温泉鬼首で「講座:地域の歴史を学ぶ」を開催しました。普段は静かなたたずまいの洞雲寺本堂は、116名の方々で埋め尽くされました。予想をはるかに超えた出来事で、参加者の皆様方には窮屈な思いをさせて申し訳ありませんでした。講座では、永井康雄先生（山形大学教授）をお招きし、鬼首地区の歴史建築物調査の事例、および民家の保存・活用に関する地域の取り組み方についてご講演をいただきました。また、荒武賢一朗（部門准教授）からは、古文書から江戸時代の鬼首をご紹介しました。大崎市はとても広いエリアですが、今回取り上げたように、ひとつの地域を重点的に調査し、特色ある歴史を広く皆さんに知ってもらうことも重要です。貴重なお話しをいただいた永井先生、企画・準備の段階からご協力をいただいた地元の皆様方、岩出山古文書を読む会の皆様に厚く御礼を申し上げます。

（荒武賢一朗）

江戸時代の絵図に注目する皆さん

講座：地域の歴史を学ぶ◎岩出山Ⅱ
―戦乱と地域史

講演会のようす

2013年12月1日、岩出山地域福祉センターのホールにて「講座:地域の歴史を学ぶ　◎岩出山Ⅱ―戦乱と地域史」(主催:部門・「岩出山古文書を読む会」、共催:大崎市岩出山公民館)が開催されました。岩出山での歴史講座は前年12月1日に引き続き2回目です。今回は東北芸術工科大学芸術学部歴史遺産学科から准教授の佐藤健治先生をお招きし、「慶長出羽合戦と伊達政宗」と題してご講演いただきました。講演は「東の関ヶ原」と言われる慶長5年(1600)の慶長出羽合戦において、伊達政宗が生き残りと勢力拡大をかけて、いかに行動したかを分析した興味深い内容でした。部門からは、助教の友田が「戊辰戦争とその影響―岩出山伊達家の場合―」という題目のもと、明治4年(1871)にはじまる岩出山伊達家の北海道開拓移住について戊辰戦争の影響を重視しながら検討を加えました。当日の参加者は132名。会場は満員で、机が足りなくなるほどの盛況ぶりでした。

また、これが機となって、友田は2014年1月から「岩出山古文書を読む会」にて中級演習を担当することとなり、戊辰戦争当時の岩出山伊達家の仙台屋敷の記録「奉宿若御用留」(「吾妻家文書」)をテキストに講義を行っています。受講生の方々は一様に熱心で予習に余念がなく、その上達ぶりには目を見張るものがあります。部門としては、今後とも「岩出山古文書を読む会」との連携を維持し、地域とのかかわりを深めていきたいと考えています。

(友田昌宏)

上廣歴史文化フォーラム
旅　人はなぜ行くのか―東北を見つめた人々―

2014年2月9日に、仙台市博物館ホールで上廣歴史文化フォーラム(主催:公益財団法人上廣倫理財団、共催:部門・仙台市博物館)が開催されました。テーマは「旅　人はなぜ行くのか―東北を見つめた人々―」で、「旅」をキーワードに先人の生き方、考え方にアプローチする講演でした。当日のプログラムは以下の通りです。

<開会の挨拶>　内山淳一(仙台市博物館副館長)
<　講　演　>　「世界・日本・奥羽をかけめぐった仙台藩士・玉蟲左太夫」
　　講師:栗原伸一郎(仙台市史編さん室嘱託)
　　「江戸時代の東北旅行―紀行文・道中日記にみえる松島―」
　　講師:高橋陽一(部門助教)

栗原氏の講演

栗原氏の講演では、激動の幕末にアメリカや蝦夷地などをめぐり、戊辰戦争にも身を投じた玉蟲左太夫のドラマチックな人生が、エピソードを交えて詳しく明らかにされました。高橋の講演は、松尾芭蕉の『おくのほそ道』を引き合いに出しながら、松島・雄島を訪れた旅行者が目にした風景にどのような印象を抱いたのか、紀行文の分析をもとに明らかにするものでした。仙台では78年ぶりとなる大雪の直後にも関わらず、128名の方にお越しいただきました。お聞き下さった皆様に心より御礼申し上げます。

(高橋陽一)

古文書講座

ドイツ・ハイデルベルク大学「古文書ワークショップ」

2013年9月16~20日、ドイツ・ハイデルベルク大学日本学科(日本学研究所)において、古文書ワークショップを開催しました。これは部門で目標としている資料研究の国際的普及を推進する教育プログラムで、海外で活動されている研究者や大学院生をサポートするためのものです。今回は14名の方々が受講し、ハイデルベルク大学のほか、ベルリンやハンブルクといったドイツ国内の大学院生たち、またイギリスやスイスの若手研究者、アメリカからの出席者もありました。古文書を学ぶ皆さんですから、もちろん日本語は堪能で、ワークショップの成果を活かして今後さらなる研究の飛躍が期待されます。

(荒武賢一朗)

ドイツで日本の古文書を読む

ワークショップを開催して

ハイデルベルク大学教授　ユーディット・アロカイ(Judit　Árokay)

荒武賢一朗先生のご指導で2013年9月中旬にハイデルベルク大学で初めての「国際崩し字ワークショップ」が行われました。いろいろな学術的な背景を持ち、様々な研究テーマにかかわっている各国からの参加者は、5日間にわたって資料の読みや解釈に取り組み、大変有意義な時間を過ごしました。字の崩し方から、辞書の正しい引き方、難解な文字やテキストの解き方、歴史や文化的な背景の読み方まで、丁寧にしかも詳しく、これからの独学の手掛かりになるように指導していただきました。全体の読解演習に加えて、参加者個人の研究テーマにかかわる資料についても指導を受けて、このワークショップはみんなにとって貴重な機会になりました。是非またの機会があればと思います。

2010年に結ばれた東北大学とハイデルベルク大学間協定の範囲でこのワークショップに続けて、共同研究やプロジェクトをこれからも追求できればと思います。

「あらぶる古文書会」・「白石古文書サークル」の活動

古文書学習では、今年度から2つの市民グループが誕生しました。仙台市片平市民センターを拠点とする「あらぶる古文書会」は、仙台市内および近隣から参加される有志で結成されました。毎月2回の講座も古文書や歴史の議論で大いに盛り上がっています。「白石古文書サークル」は、今年度開催された白石市中央公民館古文書講座で学ばれた皆さんが創設され、毎月1回のペースで顔を合わせています。最近は明治時代の北海道開拓をテキストに地域の移り変わりを学んでおられます。

(荒武賢一朗)

古文書講座の風景

競馬より面白い

仙台市「あらぶる古文書会」会長　小野 祥二

カミさんから褒められた。「お父さんの今までの道楽で一番金がかからない」と。なるほど、くずし字用例辞典を1冊購入しただけ。

市民講座「はじめての古文書」に参加して以来、はまってしまいました。種々趣味があったのだが、今は古文書一本槍で、暇があれば図書館通いです。勤め人、自営47年間、働いてきました。子供たちも独立し、自由時間はたっぷりあります。念願の全国の地方・公営競馬場めぐりの計画を立て、まずは九州の小倉競馬場から始める予定でした。

ひょんな事から、古文書の魅力に取りつかれてしまい、今はこれが一番面白い。最初はなんのことやら見当もつかなかったが、最近はだんだん光が見えてきました。さて、次に馬の顔を見に行くのはいつになるのか!

東北大学片平まつり展示

「古文書を読んで歴史を知る」

2013年10月12・13日に、東北大学片平キャンパスで、東北アジア研究センターを含む大学の研究施設や史料館を公開するイベント「東北大学片平まつり」が開催され、部門は「古文書を読んで歴史を知る」と題した展示を行いました。これは、「歴史資料保全活動の紹介」と、「古文書を読んでみよう」の2つからなり、前者は古文書のレスキューや保全活動の流れを紹介するパネル展示で、後者は変体仮名一覧のパネルを参考に自分の名前をくずし字で書いてみるという体験コースでした。来場者には親子連れが多く、子供たちは江戸時代の仮名文字の種類の多さと筆記の難しさに驚きながらも、筆ペンを使って熱心に自分の名前を書いていました。用意していたくずし字筆記技能の認定証130枚がすべてなくなるほどの盛況ぶりでした。

（高橋陽一）

くずし字の解読にチャレンジする子供たち

さらなる向上を目指して

～上廣歴史資料学研究部門古文書講座・学生向け古文書講座の開催～

2013年5月8日～7月24日までと10月23日～12月11日までの毎週水曜日、東北大学川内北キャンパスにて「上廣歴史資料学研究部門古文書講座」を開催しました。本講座は、同年1月～2月に仙台市博物館で開催した古文書講座に対し、継続を希望する声が寄せられたことから開講したものです。受講者約100名を2班に分け、各班隔週で「候文」などの基本文例を解読するほか、仙台城下に関する地誌をテキストとして読み進めました。昼下がりの90分間、受講者は毎回熱心に取り組まれていました。

上廣歴史資料学研究部門古文書講座

また、2013年4月～2014年1月までの毎週木曜日、東北大学内で初級学生向けの「古文書を読む会」を開催しました。昨年度に引き続いての開講で、仙台藩の温泉に関する文献などを解読しました。参加者は10名ほどで、東北大学をはじめとする仙台市内の大学の学生や留学生、日本史以外の専攻の学生など、所属は様々でした。

このほか、2014年1月～2月には仙台市博物館と、同年2月～3月には村田町と共催で古文書講座を開催しました。

私自身もまだまだ修練が足りないのですが、2014年度も皆さんと一緒に楽しく古文書を勉強していきたいと思います。

（高橋陽一）

「古文書を読む会」感想

東北大学大学院文学研究科博士後期課程（国語学専攻）　山下 真里

古文書は言い回しや文字の崩しなどが現在と大きく異なるため、同じ日本語とはいえ慣れるまでは読むことが非常に困難です。私は専門が日本史ではなかったので「古文書を読む会」に参加した当初は古文書が全く読めない状態でしたが、そんな私でも少しずつ古文書が読めるようになりました。古文書を読めるようになるために必要なことは、勉強のモチベーションを保つことと思いますが、「古文書を読む会」では、モチベーションを保つための工夫がいくつもあり、楽しく勉強を続けることができました。

その一例としては、最初に高頻度語を覚えることが挙げられます。「古文書を読む会」が始まった当初は高頻度語の一つである「御座候」という崩しを何通りも覚えました。「御座候」は多くの文書に出てくる語なので、これさえ覚えておけば私のような古文書の初心者でも、文字が1字も読めない、という状態が回避でき（笑）モチベーションを保つことができました。また、「古文書を読む会」の中で読む古文書のほとんどは宮城県に縁のあるものだったので、内容も非常に興味深く、楽しく古文書を読むことができました。

上廣歴史資料学研究部門

2013年度の主な活動

4月
1日　岩出山古文書を読む会を開講（前年度よりの継続、通年）
25日　学生向け古文書を読む会を開講（~2014年1月）

5月
8日　上廣歴史資料学研究部門古文書講座（春季）を開講（~7月）
20日　一関市及川家資料保全活動
29日　白石市古文書講座を開講（~7月）

6月
17日　仙台市志賀家資料保全活動（以降継続）
23日　石巻市浅野家資料保全活動
29日　公開講演会「よみがえる村田の歴史~江戸時代からのメッセージ~」を開催（於村田町）
30日　大崎市鬼首大場幸男家資料返却

7月
2日　陸前高田市吉田家文書保全活動（於東北歴史博物館）
3日　あらぶる古文書会（仙台市）開講（通年）
27·28日　共同研究第1班「江戸時代から現代に通じる東北の歴史」研究報告会（於仙台）

8月
3·4日　共同研究第2班「日本列島の文化交渉史—経済と外交」研究報告会（於仙台）
7~9日　一関市金家資料保全活動
24~25日　陸前高田市吉田家文書保全活動（於東北歴史博物館）
28~30日　古文書整理実習（以降毎月2回）
31日　共同研究第3班「旅と交流にみる近世社会」研究報告会（於仙台）

9月
16~20日　ドイツ·ハイデルベルク大学古文書ワークショップ開講
21日　丸森町宗吽院資料保全活動
25日　白石古文書サークル開講（通年）

10月
1日　友田昌宏助教が着任
6日　「講座:地域の歴史を学ぶ◎鬼首」を開催（於大崎市鬼首）
12·13日　東北大学片平まつりに「古文書を読んで歴史を知る」コーナーを出展
23日　上廣歴史資料学研究部門古文書講座（秋季）を開講（~12月）
31日　『東北アジア研究センター報告10　地域の歴史を学ぶ—宮城県大崎市の文化遺産—』刊行

11月
23·24日　一関市金家資料保全活動

12月
1日　「講座:地域の歴史を学ぶ◎岩出山II—戦乱と地域史」を開催（於大崎市岩出山）
3~26日　利府町郷土資料館ミニ企画展「利府の古文書が伝える江戸時代—小野家文書の紹介」を開催
10日　『東北アジア研究センター叢書50　江戸時代の温泉と交流—陸奥国柴田郡前川村佐藤仁右衛門家文書の世界—』刊行
18日　仙台市荒井家文書資料保全活動

1月
16日　白石市中央公民館「初めての古文書~夜の部~」開講（~3月）
17日　仙台市博物館古文書講座「はじめて古文書講座」開講（~2月）
25·26日　共同研究第1班研究報告会（於仙台）

2月
8·9日　共同研究第2班研究報告会（於東京）
9日　上廣歴史文化フォーラム「旅　人はなぜ行くのか—東北を見つめた人々—」開催（於仙台市博物館）
13日　村田町古文書講座「はじめての古文書講座」開講（~3月）
23日　共同研究第3班研究報告会（於東京）

3月
30日　丸森町宗吽院文書調査報告会「宗吽院の史料は語る」（部門後援）開催

異　動

2013年10月1日に友田昌宏助教が着任しました。また、平川新部門兼務教授が2014年3月31日に東北大学災害科学国際研究所所長を退任し、4月1日より宮城学院女子大学学長·東北大学客員教授に就任しました。

史の杜　第2号

発　行　2014年4月25日
編集·発行　東北大学東北アジア研究センター上廣歴史資料学研究部門
スタッフ　教授：平川新　准教授：荒武賢一朗　助教：高橋陽一　友田昌宏
所在地　〒980-8576　仙台市青葉区川内41
電話·ファックス　022-795-3196／022-795-3140
URL　http://uehiro-tohoku.net/